

『経営に役立つヒント』

令和七年五月一日

第二百六十四号

頭脳明晰な知識人、政治家、高級官僚、最高学府の教官が五万といえる現在の日本が、どうして世界の政治・経済・社会で通用しないのでしょうか。否、戦う前に負けているのでしょうか。

石破総理を見るにつけ、岩屋大臣を見るにつけ、日本の将来に対して絶望的になるのは私一人だけではないと思います。

「古典は文化の根幹であります。新しい思想学術は常にこの根幹から生ずる花であり、実であり、枝葉であります。古典の教養を顧みないモダニズムは、要するに軽薄と過誤とを免れません」と、碩学安岡正篤先生は語っておられます。当に慧眼であります。

明末の呂新吾が、『呻吟語』の中で、人物を三種類に分類しています。

聡明才弁なるは、これ第三等の資質。

磊落豪雄なるは、これ第二等の資質。

深沈厚重なるは、これ第一等の資質と。

聡明才弁なる人間、則ち頭脳明晰な人間の中から、これを古典・歴史・伝統・文化で鍛え上げ、深沈厚重なる人物、則ち肚のある人物に育て上げることこそが、この昏迷の続く日本を救う、唯一の道ではないでしょうか。

日清戦争・日露戦争で、弱小日本が勝ち、大東亜戦争では日本が惨敗した大きな原因の一つが、ここにあります。前者のリーダーには肚があり、後者のリーダーには頭脳はあったが肚が無かったということです。

もう記憶力の優劣や知識量で、人間のレベルを決める方法では、最早ITには勝てません。重要なのは、正しい判断力、義に基づき勇氣、公を優先する心意気、こういう日本人が本来持っているものを、再発見することです。

第三次世界大戦が始まるのではないか、一九三〇年代に似ているようだ、大恐慌が来るのではないか等々、巷間言われる不安と心配でパニックに陥ることなく、我々は、普段通りの正々堂々の経営を続けて参りましょう。

何より、日本には、万世一系の皇統があります。親に対する孝があります。君に対する忠があります。何を恐れることがありません。

それが、古典や歴史や伝統を学び、日々の実践躬行を続ける、我々中小企業の社長の誇りであり、喜びであるはずです。

「二〇五〇年に、そのとき列国は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」森信三先生の遺言です。

このことを肚に入れて、明るく楽しく、社員の人たちを導いて参りましょう。

今月のポイント

頭を鍛えた上に

肚を鍛えていこう。

